

## 東海第二 審査会合指摘事項に対する回答整理表(技術的能力1.0.2(アクセスルート))

資料番号 : PS-10-9 改0

2017年9月29日  
日本原子力発電株式会社

日付	番号	カテゴリ	資料の該当箇所	コメント内容	対応状況	回答
2017/9/12	85		1.0.2-192	屋内アクセスルートについて、要員の出発箇所(中央制御室又は緊急時対策所等)と作業場所までのアクセスルート選定(迂回ルート含む)の関係を含めて、作業の成立性に係る時間評価を整理して提示すること。	今回ご説明	【No85SAコメント回答,1.0.2-192】 中央制御室から現場に行く場合や建屋外から重大事故対策要員が合流して現場へ行く場合について整理し、C/S1FLを経由するルートおよび廃棄物処理棟4FLを経由ルートを踏まえた時間評価結果を表に記載しました。
2017/9/12	86		1.0.2-別紙30-35	原子炉建屋付属棟内のCS電気室1階からケーブル処理室への新設階段に設置するとしているハッチについて、仕様及び運用(電源喪失時も含めて、CS電気室1階からケーブル処理室へ昇る際のハッチ開の方法含む)を整理して提示すること。	今回ご説明	【No86SAコメント回答,1.0.2-別紙30】 鉄板および耐火樹脂により3時間耐火性能を確保したハッチの蓋とし、人力で上下どちらからも移動可能なものとします。人力開操作には、カウンタウエイトを設けることにより容易に操作できるものとし、通過時間に想定している5分は十分に満足できると考えています。
2017/9/12	87		1.0.2-別紙30-26	原子炉建屋への入口の多様性が確保されているかについては、大規模損壊のケーススタディを通じて説明すること。	今回ご説明	【大規模損壊審査会合(非公開)にてご説明済み,1.0.2-別紙30】 耐震性のある原子炉建屋の搬入口西側壁に扉を新設することにしました。これにより、緊対所から原子炉建屋の西側と南側の入域ルートが別ルートとなり、多様化が図られます。
2017/9/12	88		1.0.2-別紙40-4	放射線防護具と薬品類の漏えい時に仕様する防護具について、選定の考え方や運用方法を整理して提示すること。	今回ご説明	【No88SAコメント回答,1.0.2-別紙36】 廃棄物処理棟内の薬品タンク(りん酸ソーダタンク, 中和苛性タンク, 中和硫酸タンク)周辺には堰が設置されているため、薬品の漏えい時には堰内に薬品が滞留し、ガスの発生が想定される。そのため、廃棄物処理棟内の作業時は、現場の状況により必要に応じて自給式呼吸用保護具を着用することとしました。 また、屋外アクセスルートの近傍に設置している溶融炉苛性ソーダタンクおよび溶融炉アンモニウムタンクは、アクセスルートから十分な離隔を確保した箇所に移設することから、薬品タンクからの漏えいの影響は小さく、屋外作業時は放射線防護具を着用することとしました。
2017/9/12	89		1.0.2-別紙37-2	東海第二の敷地の地質、地質構造を踏まえたアクセスルートリスク評価を整理して提示すること。	今回ご説明	【No89SAコメント回答,1.0.2-別紙38】 東2の特徴である地盤の段丘部の変化および地質厚さの変化を踏まえ、液状化やゆすり込みのリスク箇所を抽出し、評価を行いました。
2017/9/12	90		1.0.2-64,106	屋外アクセスルートの評価に係る周辺斜面の崩壊及び道路面のすべり評価の記載を整理して提示すること。また、液状化に伴う沈下量評価におけるFLIPの適用性を整理して提示すること。	今回ご説明	【No90SAコメント回答,1.0.2-別紙39】 斜面評価結果の記載内容および1次元有効応力解析(FLIP)の説明内容について、見直しました。
2017/9/12	91		-	防潮堤の設置に係る地下水位設定の考え方を示した上で、浮き上がりや沈下量評価に与える影響及びその影響を踏まえたアクセスルート選定の考え方を整理して提示すること。	今回ご説明	【No91SAコメント回答】 アクセスルートの評価においては、防潮堤の設置に係る地下水位について、設置後の水位を保守的な想定で設定し、これを用いて浮き上がりや沈下の影響を想定することとしました。これに伴いアクセスルートに浮き上がり対策をする箇所および影響のある箇所を識別することとしました。また、アクセス性確保の観点から、東Iサービス建屋について、形状変更を行うこととしました。